

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3590700161		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	グループホーム笠戸		
所在地	下松市笠戸島10032-38		
自己評価作成日	令和2年6月	評価結果市町受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年7月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の誕生日にはささやかですがプレゼントを用意して他利用者様と一緒に祝いします。利用者様が制作したちぎり絵を居間の窓に貼り季節が感じられるように飾り付けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者は水やりをして育てた家庭菜園の野菜を収穫され、野菜の下ごしらえ、米どぎ、盛りつけ、お盆拭き、テーブル拭き、食器洗い等できることを職員と一緒にしておられ、食事に関する一連の作業に力を発揮されています。食事は、旬の物を使い、一汁一菜を心がけておられ、毎月1日のお赤飯、週1回のおにぎりづくりの日、月1回の誕生日食(お寿司、天ぷら、ケーキ)、月1回の季節の行事食で月日や季節の移り変わりがわかるように工夫されています。おやつづくりでは、昔懐かしいものや季節感を考慮されて、つくることを楽しみながら、美味しいものを楽しく食べる支援をされています。利用者の体調や天候を配慮して、日常的に施設周辺の散歩に出かけられ、毎週土曜日には、隣接グラウンドでグラウンドボールを楽しむ地域の人との交流しておられます。野菜づくり、芋掘り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、裁縫、おやつづくり、みんなと一緒に季節のちぎり絵制作など、利用者一人ひとりの活躍できる場面づくりややる気を引き出す楽しみごとの場面づくりをされて、利用者が張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内の見えやすい場所に掲示して、職員はそれを共有し日々の業務を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、食堂と廊下に掲示している。職員は毎月の職員会議や日常業務の中で理念を確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事には出来る限り参加している。	自治会に加入しており、毎年職員が地域の除草作業に参加している。利用者は、地域の行事(どんど焼き、運動会、火祭り、敬老会)に参加して地域の人と交流している。周年祭(法人の祭り)には、ボランティア(歌、踊り)、地域の人、家族が参加して一緒に昼食を食べながら利用者で交流している。併設のデイサービスセンターに出向いて、来訪のボランティア(カラオケ、朗読、琴、フラダンス、ハーモニカ演奏など)との交流を楽しんだり、デイサービスの利用者で交流している。毎週土曜日には、隣接するグラウンドでランドゴルフを楽しむ地域住民と挨拶を交わすなど交流している。職員が地域で開催している市主催の認知症予防教室に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し地域との交流につとめている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を理解しながら取り組んでいる。	管理者は、職員会議で評価の意義を説明している。全職員に書類を配布し、記入してもらったものと日常業務の中で職員から聞き取ったことを参考にして管理者がまとめ、再度職員が確認している。自己評価を活かして、職員会議で目標達成計画をたて、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、活動報告や取り組み状況を説明し、運営推進委員の皆様から意見を頂きながらサービスの向上や生活の中に活かしている。	会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況、事業報告、行事予定、事故報告などを行い、意見交換している。家族には会議の案内を送り、議事録は字を大きく、簡潔明瞭にするなど工夫して報告している。コロナ禍での外部からの不要不急の来訪中止など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや、困ったことがあるときには相談を持ちかけ、協力をお願いする。	市担当者とは、電話や直接出向いて相談、情報交換するなど協力体制を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換する他、オレンジカフェの運営について相談するなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は「身体拘束廃止マニュアル」と年2回の研修で身体拘束について学び、理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。スピーチロックについては、職員同士で注意し合っている他、管理者が指導している。玄関は施錠せず、利用者が外に出たい時は職員と一緒に出かけているなど、利用者が閉塞感を持たないように対応している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書面にて学び虐待防止につとめている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議・全体会議で勉強会を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日に契約の締結等説明し、ご理解と同意を求め納得して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご意見やご要望を伺い、改善や調整を行い反映させている。苦情に対する受付体制も出来ている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。毎月、事業所だよりと行事予定表を送付して利用者の様子を知らせており、面会時、電話時、運営推進会議時、行事参加時、苦情箱への投稿などで家族からの意見や要望を聞いている。3ヶ月に1回、介護相談員が来て、利用者の話を聞いている。食事の内容や形態、下肢の強化など、ケアに対する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議で意見や提案を聞き反映している。	年1回、代表者の個人面談がある。管理者は、毎月のミーティングや申し送り、日頃の業務の中で、職員からの意見や提案を聞いている。業務内容の検討や残業を伴わない業務内容など、職員からの提案を受けて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、研修会への積極的な参加を促し、職員のモチベーション向上に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	担当者を決めて月に一度、内部研修会を実施している。また、資格取得への協力体制及びスキルアップに繋げるように進めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。初任者研修、認知症研修会に参加し、受講後は全体会議で復命している。法人研修は、年間計画に基づき、毎月法人施設の職員が講師となって開催し、介護現場の事故対応、熱中症対策、脳の活性化などをテーマに実施している。内部研修は、年間計画に基づき、毎月職員が交替で講師となって、介護記録の書き方、緊急時の対応、認知症への対応などをテーマに実施し、欠席者は研修会参加報告書で学んでいる。新人研修は、事業所に配置後、管理者業務の中で行い、働きながら学べる様に支援している。資格取得については、休日の振替や資格手当の支給などを支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内での他の事業所内との交流は、イベントの手伝いや研修会、会議等を通じて行っている。これからは、他のグループホームとの交流にも取り組んでいきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			d@)4-4		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人やご家族と面談を行い、不安なことやご要望などをよくお聞きして、安心して頂けるように信頼関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族に施設を見学していただき、不安なことやご要望などをよくお聞きして、安心して頂けるように信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の意向をしっかり把握したうえで、今必要とされる支援を見極めて、ご本人やご家族から安心して頂けるようなサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識をもち、人生の先輩から学ぶという姿勢のもとで生活している。掃除や食事、洗濯もの干しやたたみなど、ありがとう・助かったよと声掛けをして助け合いの関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や友人がいつでも気軽に面会に来られる雰囲気作りをして、必要なものなども職員と一緒に支え合っていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会など馴染みの関係を保っている。面会時にはゆっくり過ごしていただき、これまでの関係が継続されるよう支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人、隣接の有料老人ホームの入居者、デイサービス利用者などの来訪がある他、年賀状や手紙、電話の取り次ぎを支援している。家族の協力を得て外出や、法事への参加や墓参り、外食など、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士と一緒に生活する家族として関り合えるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所者の入院先にお見舞いに行き、ご相談などの話し合いに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に話を伺い、強い思いがある時は時間を作り、利用者様に寄り添い傾聴している。	入居時のアセスメントシート(基本情報、生活歴、要望など)を活用している他、日々の関わりの中で利用者一人ひとりの様子や気付き、会話、行動などを行動・介護記録に記入して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取ったことを参考に、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やご本人の話を伺い、生活歴や馴染みの暮らし等これまでの経緯の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る力、理解度等を日々の生活の中で見出して現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などで一人ひとりの問題点を話し合い意見やアイデアなどを反映して介護計画に繋げている。	計画作成担当者と担当職員が中心となって毎月カンファレンスを開催し、利用者、家族の思い、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月から6ヶ月ごとにモニタリングを行い、利用者の状態が変化した場合は、その都度話し合っで見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方一人ひとりの日々の様子やケア方法の実践について記録に残している。状態に変化があった場合にはその都度職員間で情報を共有し、具体的なケア方法等の検討を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が生じた場合など医療機関と連携をとりご家族に報告・相談し、受診・入院等の支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアに来て頂き、心豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。(現在、新型コロナウイルス感染症対応の為、休止している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として往診してもらっている。また、病状により受診を希望、または受診をした方がよいと判断した場合、職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	2名の利用者以外は、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療があり、法人の看護師が付き添っている。協力医療機関以外の医療機関や他科受診は家族の協力を得ており、口頭で日頃の状況を伝えている。歯科受診は、家族や事業所で協力歯科医院を受診している。週に1回法人の看護師が健康観察を行っている。夜間や緊急時は、管理者、法人の看護師を中心に医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には随時、報告・連絡・相談出来る体制が整っており、定期的あるいは突発的な場合に於いても適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された日から、ご本人には寂しい思いをされないように、お見舞いに行き、ご家族や病院関係者と情報交換や相談に努め、看護師との関係作りにも努力している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、利用者の方が医療が必要となりホームでの生活が困難になった場合は、ご家族・主治医・看護師・ケアマネ・職員と十分に話し合いを行い、今後の支援に取り組んでいる。	「重度化対応マニュアル」に基づき、重度化や終末期に向けて事業所ができる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を確認し、主治医や法人の看護師など関係者で話し合い、医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。看取りの支援もしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	同法人の看護師の協力体制を整えている。事故防止に向けて十分気を付けて対応している。看護師による職員研修会等、今後初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身につけていきたい。	対応した職員が、ヒヤリハット報告書、事故報告書に記入し、管理者が確認後、全職員に回覧している。緊急ミーティング、全体会議、職員会議で検討し、再発防止に努めている。火傷、剥離、打撲の処置などは、日常業務の中で看護師から学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度、職員と利用者の方全員で避難訓練を行っている。また、休日や夜間にも緊急連絡網を通じて呼び出し訓練を行っている。	年2回、法人全体で、通報、避難経路の確認、避難訓練を利用者も参加して実施し、1回は消防署の協力を得ている。毎月15日は併設のディサービスセンターと合同で火災避難訓練、土砂災害避難訓練を実施している他、事業所独自で年1回、緊急連絡網を使用した呼び出し訓練を実施している。運営推進会議では、災害に応じた避難場所について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。食料、オムツ、医薬品などを災害に向けて備蓄している。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しプライドを傷つけないよう、居室への出入りの際は声掛けや、入浴時・排泄時の介助にはドアを閉めるなどの対応を心掛けている。	職員は、「プライバシー保護マニュアル」に基づいて、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者の記録や個人情報の取り扱いや管理にも留意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要しない。また、利用者の方が自己決定出来るように選択肢を用意して働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは基本的にあるが、ご本人の意思に沿って一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問理容師にカットをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度、利用者の方におにぎりを作って頂き、昼食時みんなで食べている。また、不定期に、職員と共に色々なおやつ作りをし、楽しんでいる。	朝食と炊飯は事業所で行い、昼食と夕食の副菜は、法人の栄養士がたてた献立で、畑で収穫した野菜を使い、併設のディサービスセンターの厨房で調理している。利用者は、米とぎ、野菜の下ごしらえ、盛りつけ、ご飯や味噌汁をよそう、テーブル拭き、お盆拭き、配膳、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒にテーブルを囲んで同じものを食べている。毎月1日のお赤飯、週1回のおにぎりの日、月1回の誕生日食(寿司、天ぷら、ケーキ)、季節の行事食(おせち、節分、ひな祭り、端午、七夕、流しそうめん、敬老の日、クリスマス)、おやつづくり(ゼンざい、牛乳寒天、プリン、ゼリー、ピザ、ホットケーキ、桜餅など)、家族の協力を得ての外食、自宅での食事、車中で花見弁当など、食べることを楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水便量共に記録を取っている。特に水分量は少ない利用者が多いので、摂取するよう声掛けを行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。磨き残しが多い為、時々職員が歯磨きを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、その人に合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、水分摂取量を多くするようにしたり、毎日の体操で便秘の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、平日・午前中を入浴時間に行っている。利用者様の体調に合わせて日にちの変更などを行っている。	毎日、9時30分から11時30分頃まで可能で、利用者の希望に合わせてゆっくり入浴出来るように支援し、週に2回は入浴できるようにしている。体調に合わせて、シャワー浴や半身浴、足浴、清拭で対応し、柚子湯や入浴剤を使用して、入浴を楽しんでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調などにより、昼寝をして頂いたり、居室の温度・湿度なども管理し、またご本人の希望を尊重している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルに収め、処方情報を共有し、変更時にも職員全員に申し送りを行っている。また、変更時の体調変化などは、かかりつけ医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ等の家事作業や、ちぎり絵や風船バレーなどのレクリエーションなど、利用者の方が、楽しく過ごして頂けるよう支援している。	テレビ(時代劇、歌番組、ニュース)やDVD(歌番組)の視聴、本、雑誌、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、脳トレ(漢字、計算)、歌、カラオケ、ラジオ体操、口腔体操、風船バレー、玉入れ、魚釣りゲーム、おやつづくり、季節行事(節句、七夕、敬老会、運動会、ハロウィン、クリスマスなど)などの楽しみごとの支援をしている他、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、カーテンの開閉、日めくり、新聞とチラシの仕分け、裁縫、ゴミ捨て、食事の手伝い(米とぎ、野菜の下ごしらえ、盛りつけなど)、花の苗植え、畑やプランターへの水やり、野菜の収穫(イモ、トマト、ナス、豆類等)など活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候などに配慮しながら、散歩を行っている。地域の行事にも参加し、多くの皆様と触れ合う機会を設けている。	その日の天候や利用者の体調を配慮しながら、日常的に施設周辺を散歩したり、花摘みやひなたぼっこを楽しんでいる。家族の協力を得て、病院受診や外食、自宅への外出、法事や墓参りのための外出など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者の方が自己管理が難しい為、基本的には所持金はありません。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの要望があれば、支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、落ち着いた色のカーテンを掛け、強い刺激が無いよう配慮している。また、季節の花を飾ったり、日中はカーテンを開け外の景色を楽しんでもらっている。	玄関に花を飾り、居間兼食堂は、天井が高く、広々としており、大きな窓からは自然の光が差し込んで明るく、緑の山々や畑の野菜を眺めることができ、季節の移ろいを感じることができる。ダイニングテーブルやイス、大型テレビの前には大きなソファを配置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。季節の花を飾り、壁面には、朝顔やひまわりなど利用者が職員と一緒につくった季節の作品や日常の写真等を飾り、季節感を感じることができる。温度や湿度、換気などに配慮して、利用者が居心地良く過ごせる様に工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い空間となるよう、テーブルやイス・ソファの配置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた馴染みの品物や家具などを持参して頂き、ご本人様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	テレビ、整理ダンス、衣装掛け、机、イス、籐イス、三段ケース、時計、ぬいぐるみ、人形、小物入れなど、自宅で使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や手づくりのカレンダー、色紙などを飾っている。室内は本人が落ち着く色彩で、使い勝手が良いように家具を配置するなど、居心地良く過ごせる様に配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に考えて、危険の無いように不要な物を排除し、大きな文字の張り紙などにより、自立できるよう工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム笠戸

作成日: 令和 2 年 12 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	定期的な研修を行う	2ヶ月
2	36	災害対策	地域との協力体制の構築	イベントに積極的に参加し地域との関わりを持つ	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。